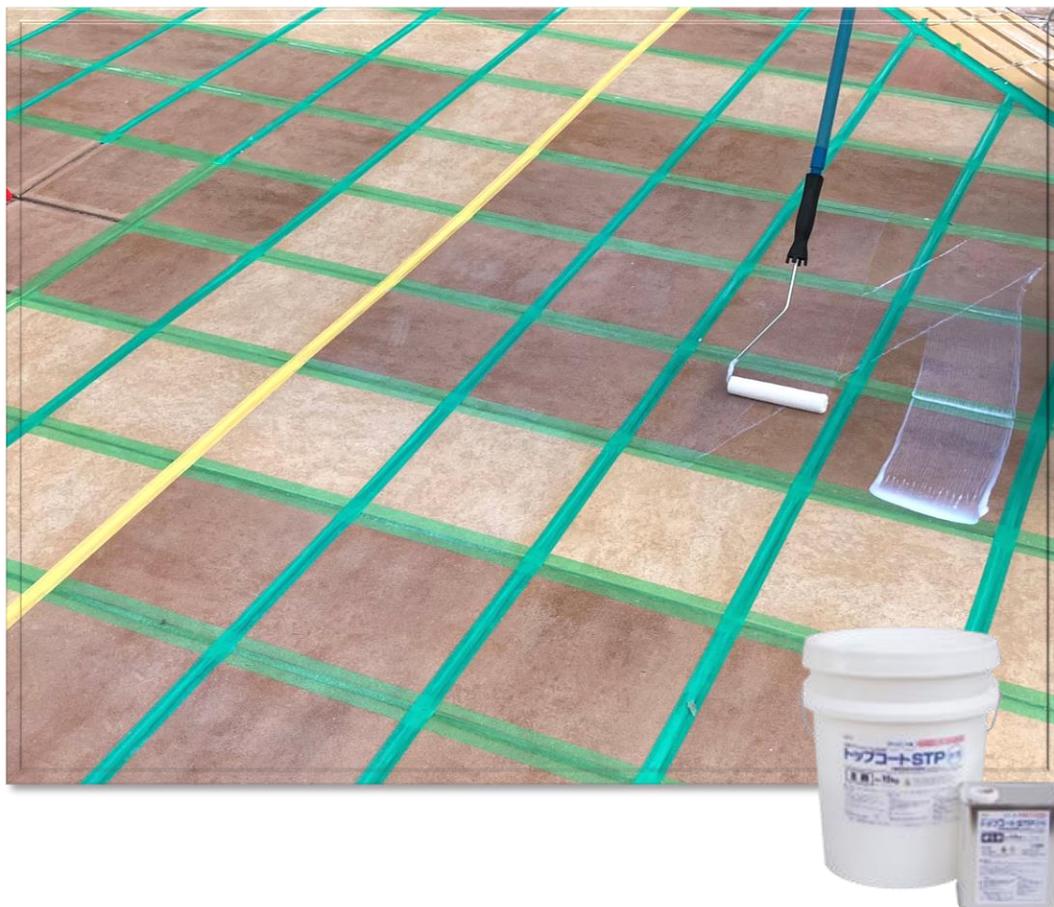


スリップ防止用塗料

特殊アクリルシリコン系塗料

トッポコート^{ES}-STP^{TEE} ^{ビー}水性

施工要領書



◆製品概要

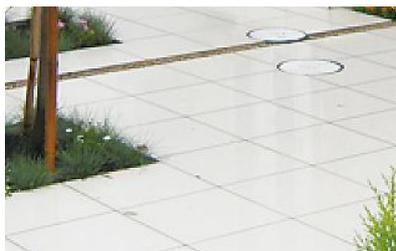
製品：トップコートSTP水性

用途：クリヤータイプの滑り止め塗料（水性アクリルシリコン系樹脂）

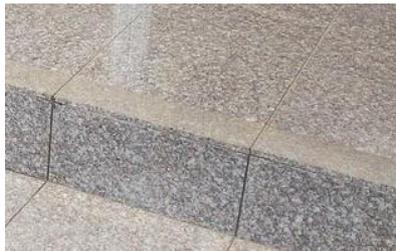
下地の意匠はそのままに、滑り止めと下地保護を実現します。

美観と安全性の両立を求められる環境に最適な塗料です。

適応：滑りやすい石材やタイルの階段・水に濡れると滑る床面・コンクリート面 など



住宅アプローチのタイル



石材タイル



階段

※タイルの種類や下地の状態によっては密着しない場合があります

特長：

- 安全性：**水性の低VOC（揮発性有機化合物）塗料なので、低臭気で安全 F☆☆☆☆対応
- 透明性：**透明なので、下地の意匠を活かせる
- 耐久性：**強靱な塗膜を形成し耐久性に優れる
- 接着性：**無機素材に対して強力に接着
- 短工期：**下塗り（プライマー）不要、速乾で工期短縮

◆製品仕様

製品一覧

製品名	内容
広面積用セット（塗布面積：約80m ² ）	
トップコートSTP水性 主剤	15 kg/ポリペール缶
トップコートSTP水性 硬化剤	1.5kg/缶
小面積用セット（塗布面積：約10m ² ）	
トップコートSTP水性 主剤	2 kg/小ポリペール缶
トップコートSTP水性 硬化剤	0.2kg/缶



製品の成分

製品名	成分
トップコートSTP水性 主剤	アクリル樹脂系塗料
トップコートSTP水性 硬化剤	水分散型イソシアネート

※化学物質に関する詳しい情報は、「安全データシート（SDS）」をご覧ください

安全上の警告

次のことを守らないと重大な事故の原因となります。

- ・ 火気厳禁
- ・ 消火器の設置
- ・ 作業者は安全帽、保護マスク、保護手袋、保護眼鏡の着用
- ・ 衣服に塗料、樹脂等が付着した場合は、直ちに汚染された衣服を脱ぐこと
- ・ 肌や目に塗料、樹脂等が付着した場合は、すぐに十分な水で洗い流し、必要に応じて手当てを受けること

使用上の注意

(1) トップコートSTP水性は、防滑材です。

手順や施工方法に従わずに施工されますと、施工に失敗することがありますので、十分に本施工要領書をお読みになって施工を行ってください。

不明な点はメーカーにお問い合わせください。

(2) トップコートSTP水性の塗装前には、**下地に油分や水分などが無いように十分ご注意ください。**

下地に油分や水分があると、下地との密着が不十分となり塗膜の剥がれにつながります。

必要に応じて油分や水分を除去するための下地処理を行ってください。

(3) トップコートSTP水性の密着性は、**十分な下地処理ができていること**が前提となります。

(4) 下記の場合、施工を見合わせること。

- ・ 施工面の温度を温度計で計測し、**5℃以下または50℃以上の場合**
(5℃以下では硬化しません。高温では硬化が早過ぎ施工が難しくなります。)
- ・ 湿度80%以上の場合
- ・ 降雨の場合、施工面に水分が残っている場合、降雨が予想される場合
- ・ 施工面に結露が生じている、または生じる可能性がある場合

(5) 各材料は、直射日光の当たる場所、高温多湿の場所を避けて保管すること。

(6) 一度凍結した材料はご使用いただけません（性状が変化して十分な機能を発揮できません）。

(7) 主剤は混合前によく攪拌し、均一にしてから使用すること（骨材は沈殿しやすいため）。

(8) シンナーでの希釈はしないこと。

無希釈での施工を奨励しますが、やむを得ず希釈する場合、希釈は水道水を使用すること。

水が多いと硬化は遅くなります。

(9) 一度に規定量以上塗装すると白化などの不具合の原因になるため、規定量（0.2kg/m²）を厳守すること。

強度を高める場合は、数回に分けて塗装すること。

(10) 塗装完了後、塗装箇所では水を使用する場合は24時間以上開けて使用すること。

(11) 配合量は必ず守ってください。

主剤・硬化剤の配合バランスが崩れると、密着不良や硬化不良の原因となります。

- ・ 全量使い切る場合は、硬化剤が全量投入されているか確認すること
- ・ 小分けの場合はハカリを使用し、配合量に間違いがないか確認すること

◆施工前の準備と確認 【重要】

検査確認・記録

正しい施工および管理のために、事前の検査確認と記録を行ってください。

- ・ 施工環境、作業および検査の記録をとること
- ・ 施工は屋外で行うことを標準とし、屋内で施工する場合は換気を十分に行うこと
- ・ 日時、場所、天候、気温、施工管理者、作業員、使用材料、作業状況、検査確認結果
- ・ 材料の安全データシート（SDS）を収集し確認すること
- ・ 材料の商品名、Lot No.、使用量を記録すること
- ・ 材料が十分に混合され均一な状態で施工すること

施工面における検査確認・記録を行う項目、および施工可能な下地の条件

- ・ 油分がないこと
- ・ 水分がないこと
- ・ 汚れ、付着物、ゴミ、粉塵等が施工面に残っていないこと
- ・ コンクリート下地の場合、打設の日時および養生期間

事前確認・試験施工

- ・ **必ず事前に試験施工を行うこと**

対象となる下地に本製品の施工が適しているかを確認してください。

下地状況によっては施工に適さない場合もあります。

・ 下地との密着性

施工前の下地の清掃と洗浄が重要です。十分に清掃と洗浄を行ってください。

タイルは種類も多く、表面加工も様々です。

特殊なコーティング(釉薬)が施されている場合は塗料が密着しません。

コンクリートは打設後4週間養生後、施工してください。

養生期間の不足はコンクリート中の水分やアルカリの影響により密着不良を起こす原因になります。

(数値の目安として、含水率：コンクリート含水率測定器にて5%以下、アルカリ：ph9.5以下)

強化コンクリートや強く締め固められたコンクリートは、現場状況により密着が弱くなる場合があります。

また、吸い込みが激しいコンクリートなどは、塗装ムラや下地吸い込みにより樹脂分が不足し、骨材が取れやすくなる場合があります。

木材は、水分を多く含む場合や塗装後に、土や水に接触して湿った状態が続く場合、特殊な加工がされている場合などは、密着性が低くなる場合があります。

・ 滑り止め効果

- ・ 通常の場合と水で濡れた場合の両方で滑り止め効果をご確認ください。
- ・ 施工や下地の状況によって異なり、全ての状況において滑らない事を保証するものではありません。

・ 色味の変化

- ・ 下地によっては施工後、汚れが目立つ場合があります。
- ・ コンクリートは樹脂が染み込むことにより、濡れた感じで色が多少暗くなります。

施工に使用する道具

- ・ 中毛ローラー（推奨）
- ・ バケツ、ウエス、養生材、電動攪拌ミキサー、計量用ハカリ、ブーツカバー
- ・ 安全帽、保護マスク、保護手袋、保護眼鏡（作業者の安全対策）

【ご注意】

施工マニュアルに基づいた施工であっても、施工に関しては一切の責任を負いません。
施工に不安を感じる場合は当社にご相談いただくか、認定施工代理店での責任施工をお勧めします。

◆ 施工手順

磁器タイル・コンクリート・既存塗装面

- ・ 歩行・軽車両（台車、自転車等）仕様 …1回塗り以上：0.2kg/m²
- ・ 重歩行（人、台車、自転車等の通行頻度が高い）仕様 …2回塗り以上：0.2kg/m²×2回

1 下地清掃 下地処理

- ・ 塗装の前にホコリ、泥、カビなどの異物を除去してください。
- ・ 下地にワックス・油分がある場合は完全に除去してください。
- ・ 必要に応じて電動ポリッシャーなどで油分を除去してください。



- ・ 汚れを落としきるために**強アルカリ洗剤（界面活性剤少な目）**で洗淨してください。
- ・ 水を使用後は、良く乾燥させてください。
- ・ 十分な乾燥養生後、**アルコール**で脱脂を行ってください。

※下地の準備が整ったかどうかは水をスプレーしてみると判断できます。

水性塗料のため、水を弾く状態では施工できません。

親水性が確認出来たら施工可能です。

- ・ 表面に水や油分などが残っていないことを十分確認してください。

あとで塗膜の剥がれの原因になります。

※トップコートSTP水性は、非常に密着性が高い塗料ですが、下地清掃や下地処理がしっかり行われていないと剥離などの不具合に繋がります。

下地処理を丹念に行ってください。最も重要です。

※有機素材の床材（エポキシ、ウレタン、MMAなど）は、表面調整剤、ワックスなどが床材表面に浮き上がっている場合が多いため、表面を研磨してから塗布してください。

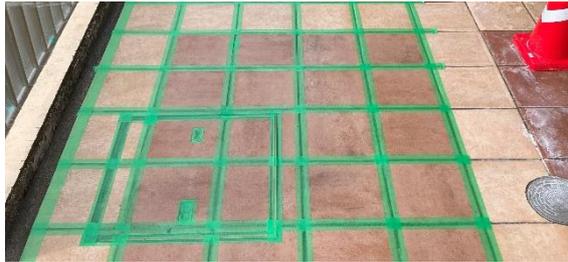
2

マスキング 養生

- ・塗料が付着すると困る箇所や目地は、養生シートやマスキングテープなどで全てカバーしてください。

※目地にそのまま施工しますと、塗料が溜まり白化する、完全乾燥後でも目地裏からの浸水により塗膜が押し上げられ剥離するなど、不具合の原因になる可能性があります。

※目地に塗り込み埋めてしまうと雨水などが本来の排水ルートを通れず、余計に滑るような状況を作りかねません。



目地や金属部分に対して
マスキング（タイル施工例）



塗料が目地に溜まり
硬化してしまい白濁したまま

白化不具合例

3

配合

- ・**硬化剤混合の前に**、予め主剤だけを電動攪拌機で攪拌し、**骨材を均一にしてください**（骨材が沈降しているため）。



始めに主剤のみをかく拌し、骨材を均一にします。

- ・**主剤：硬化剤=10：1（重量比）**の割合で混合の後、電動攪拌機で30秒以上良く攪拌してください。

※硬化剤はしっかりと全量を容器から出し切ってください（粘度が高いため）。



次に硬化剤を混合。

- ・小分けする場合は、必ず計量してください。

4

塗装 乾燥～開放

- ・ **中毛ローラー（推奨）**にて、ムラにならないよう塗装してください。



- ・ 塗装面に乗る際は、汚さないようにブーツカバーなどを着用してください。
- ・ 塗装直後は乳白色をしていますが、30分以内に透明化してきます。
白いままの場合、水分を含んだ可能性があり、剥離の恐れがあります。
その場合は、塗り直しをしてください。先に塗った分はスクレーパー等で除去します。
- ・ 塗装後は硬化するまで施工箇所に触れたり、立ち入ったりしないでください。
- ・ 攪拌後は1時間以内に使い切ってください（25℃時）。
- ・ 作業中も骨材が沈殿する場合がありますので、時折、攪拌してください。

※2回塗りの場合は、作業を繰り返します。

1回目の塗料と混合、継ぎ足しをしないでください。

1層目の表面が半乾きした上に塗り重ねを行います。乾燥時間は温度・湿度・風に左右されますが、**気温20℃で30分～2時間程度**です。

目安は、**作業者が上を歩けるようになったとき**です。

- ・ 塗装終了後、目地のマスキングテープは半乾きの時点で剥がしてください。

※マスキングテープの撤去前に塗膜が完全硬化してしまうと、剥がす際に塗膜と一緒に剥がしてしまう恐れがあります。

- ・ 乾燥したのち開放してください。

※冬季などご使用条件により硬化時間が長くなります。

しっかりと時間を設け確認の上で開放してください。

補足 ※車道、駐車場など常に車が通行する箇所には対応しません。

※本仕様は標準仕様であり、現場の状態により施工方法が異なる場合があります。

※施工の際は、**使用上の注意、施工前の準備と確認【重要】**の項目を必ず参照すること。

※下地清掃の際、中性洗剤では汚れが落ち切らないことがほとんどです。

頑固な汚れには**アルカリでの洗浄**を推奨いたします。（強アルカリの界面活性剤少なめを推奨）

トップコートSTP水性用アルカリ洗剤（pH13）の用意があります。

※浴場やプールなど絶えず水濡れする場所などでは、酸性の洗浄が必要な場合もあります。

※トップコートSTP水性は基本的にはプライマーが不要です。

但し、下地によってはプライマーが必要な場合もあります。

※ご不明な点は、メーカーにお問い合わせください。